

# まちの史跡めぐり

町文化財専門委員

石龍 豊彦夫

## 大正13年刊行の『糟屋郡志』を読む(9)

### 郵便・電信・電話

明する。

その受話器を余に持たしめ、彼は吹込器を手にして低音にて英語の談話をなしたるが、すこぶる明瞭に聞こえたり。又彼は伊沢と余に命じ、日本語にて談話を試みよと言う。是も亦英語と同じく明瞭に聞き取りたり。

これによって電話機は英語にも日本語にも等しく役に立つとわかったわけだ。ある人は日本で最初に電話で話された言葉は博多弁だと主張する。伊沢は長野県出身で帰国後は音楽教育の基礎を築き、西洋音楽を移入し、小学校に唱歌という教科を作った。

## 191

後のことだが、アメリカ電信電話会社(AT&T)から金子とベルとの関係について、政府に照会があり、その手紙が金子に回された。ベルは「日本語は電話を通じて話された外国語の内では、最初のものではあった」と語っていたという。金子は記憶をたどって返答した。

初めて見る電話機は、今日のそれに比較すると不格好な「不格好」なものであったが、一方をベル氏の居室へ運び、二室の端と端に居て、扱て二人は期せずして、「オイ伊沢君聞こえるか?」「オイ金子君聞こえるか?」と同じ様な言葉を発したのであった。成る程立派に聞こえるばかりか、相手の伊沢君の声だと、はっきりと判定がつく。二人は電話は早く実用化して、日本と話が出る様になれば：など雑談

を交わしたりした。ベル氏は二人の喜ぶ有様を見て、如何にも満足げに始終微笑していた顔が今なお私の眼前に彷彿する。(内海朝次郎「通信島の先輩巡礼」昭和十年)

ベルは金子に電話機を持たせて別室から英語で語りかけたのです。確かに聞き取れませんでした。問題は日本語でも大丈夫かどうか、です。それで今度は伊沢と金子の間で、日本語で話し、ちゃんと聞き取れることを確かめました。ウソのようなホントの話ですが、初めて出会う発明品なので、ひとつひとつ確かめて納得する必要があったのです。金子が博多弁、伊沢が長野弁だったとすると、確かに博多弁と長野弁が電話で最初に語られた日本語ということになるでしょうが、これは確かめる術もなく保証できません。

しておきましょう。

福岡市鳥飼出身の金子堅太郎は1871年(明治4年)から1878年(明治11年)までアメリカに留学し、ハーバード大学法科大学院(ロースクール)を卒業しました。その金子堅太郎の生涯について書いた文章の一節です。金子は友人の伊沢修二と共にベルの家を訪ねました。

この時期の有名なエピソードは電話の発明者ベルを訪ねたことである。この発明を理解する投資家がアメリカにはいなかった。文部省から留学生として派遣されていた伊沢修二と連れだって、ボストンのベルの家を訪れた。ベルは器械を見せて説

『糟屋郡志』では郵便・電信・電話の歴史にもふれています。電信は電報です。今の電子メールに該当するのが電報で、電話はもちろん固定電話ですが、それも現在では携帯電話を経てスマートフォンへと変化しました。大学入試の合格・不合格の連絡も、昭和40年代までは「サクラサク」とか「サクラチル」と短い文面の電報が届いたものでした。字数によって料金が変わるのでできるだけ短い文章が選ばれたのです。

電話の発明者はアメリカの発明家グラハム・ベルです。電話で話された最初の日本語は博多弁である、と言われています。私が昔書いた文章をここに引用

おもしろいのは、初めて電話に接した二人の日本青年が、日本とアメリカで話ができるのではないかと、夢物語のように語り合ったことです。当時、日本とアメリカでの手紙のやりとりは不自由だったので、電話で話せれば今現在の日本の事情をアメリカで即座に知ることができる、というのは、切実な思いだったでしょう。それも1906年(明治39年)に太平洋に海底電信ケーブルが敷かれたことで可能になりました。

『糟屋郡志』に戻ります。

### 郵便

明治維新後、1871年(明治4年)に郵便の制度が始まり、郵便切手も定められました。東京・長崎間で郵便が始まったのが同年12月5日。翌年6月に国内一般での郵便が始まりました。福岡と江戸の間が300里、書状が届くのに1か月かかったのが、郵便は36〜40時間しかかからない。驚いた話だ、と『糟屋郡志』は書いています。

1875年(明治8年)の郵便局は糟屋郡に3か所です。箱崎・篠栗・青柳とも街道の宿場町

だったところです。郵便取扱所は郵便役所より格上のようにです。

- 郵便取扱所 箱崎村字馬場町
- 郵便役所 篠栗村字下町
- 同 青柳町字横町

郵便局の設置は次の通りです。停車場は鉄道の駅のこと。香椎・古賀・西戸崎・青柳・新宮・和白・志賀島を除く7か所について記します。

- 篠栗郵便局 篠栗村大字篠栗
- 1880年(明治13年)10月、郵便役所が郵便局に改められました。
- 箱崎郵便局 箱崎町字小寺
- 1901年(明治34年)2月、箱崎郵便取扱所が郵便局に改められました。
- 宇美郵便局 宇美町大字宇美
- 1899年(明治32年)9月開局。
- 須恵郵便局 須恵村大字上須恵
- 宇美郵便局所属、無集配局、とされています。1901年(明治34年)3月、須恵郵便受取所開設、その後名称を変更。集配以外の郵便事務を担当し、1920年(大正9年)6月から電信電話業務も開始しています。電報の受付、電話交換などを始めたのでしよう。
- 長者原郵便局 大川村新長者原

### 電話

福岡電話交換局の開設は1899年(明治32年)5月。福岡市を中心にその周辺の町村が交換区域とされ、箱崎町はその区域に編入されました。箱崎町では糟屋郡役所が率先して加入し、その電話番号410番だけしか該当するものがなかったとされています。

1922年(大正11年)末には箱崎町の加入者は50人に増え、各郵便局が電話通話所、または交換所を兼ねるようになります。その郵便局は糟屋郡で篠栗・宇美・須恵など10か所。この内、宇美局の加入者が44、篠栗局の加入者が49としています。

須恵郵便局の電話交換開始について官報で確かめてみました。

◎通信省告示第九百五十四号  
本月二十一日ヨリ左記郵便局二ヲ廃止ス但シ当該所ニ於テ取扱ヒタル事務ハ下記郵便局之ヲ承継ス

大正九年六月十八日  
通信大臣野田卯太郎

◎通信省告示第九百五十六号  
明治三十九年六月通信省告示第二百六十四号市外通話区域及普通通話料中左ノ通追加シ本月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年六月十八日  
通信大臣野田卯太郎

名称	須恵郵便局	市外通話区域
位置	福岡県糟屋郡須恵村	一 通話ノ普通電話料
◎通信省告示第九百五十四号	須恵	福岡間 金十銭
本月二十一日限り左記電信取扱所ヲ廃止ス但シ当該所ニ於テ取扱ヒタル事務ハ下記郵便局之ヲ承継ス	同	久留米間 金二十銭
	同	大牟田間 金二十五銭
	同	直方間 金二十銭
	同	飯塚間 金十五銭
	同	八幡間 金二十銭
	同	二日市間 金十銭
	同	前原間 金二十銭
	同	周船寺間 金二十銭
	同	今宿間 金十五銭
	同	甘木間 金十銭
	同	夜須間 金十銭
	同	姪浜間 金十五銭
	同	雑餉隈間 金十銭
	同	宇美間 金五銭
	同	鳥栖間 金二十銭

大正九年六月十八日  
通信大臣野田卯太郎

一、呼出区域 福岡県糟屋郡須恵村大字上須恵(字上須恵、同皿山、同南米里、同萱野)、同須恵(字須恵) 呼出受持局 須恵

後のことだが、アメリカ電信電話会社(AT&T)から金子とベルとの関係について、政府に照会があり、その手紙が金子に回された。ベルは「日本語は電話を通じて話された外国語の内では、最初のものではあった」と語っていたという。金子は記憶をたどって返答した。

初めて見る電話機は、今日のそれに比較すると不格好な「不格好」なものであったが、一方をベル氏の居室へ運び、二室の端と端に居て、扱て二人は期せずして、「オイ伊沢君聞こえるか?」「オイ金子君聞こえるか?」と同じ様な言葉を発したのであった。成る程立派に聞こえるばかりか、相手の伊沢君の声だと、はっきりと判定がつく。二人は電話は早く実用化して、日本と話が出る様になれば：など雑談